

特別支援学校（知的障害）における自立活動の充実に関する研究

－「自閉症教育の7つのキーポイント」を活用して－

特別支援学校（知的障害）における自立活動の指導を充実する上で、自閉症児を対象として個々の児童生徒の実態把握からその障害特性に対する指導内容、指導方法、評価の在り方について研究を進めた。そして、「ICF整理シート」「7つのキーポイントアセスメントシート」「授業計画シート」「授業改善シート」の4種類のシートで構成する「指導計画ファイル」を作成し、これらを活用した計画（Plan）－実践（Do）－評価（Check）－改善（Action）の過程での授業改善を図る手順を明確にし具体的な実践事例を示した。

＜検索用キーワード＞ 自立活動 特別支援学校 知的障害 自閉症 7つのキーポイント
授業改善 アセスメント 指導計画ファイル

研究会委員

県立みあい養護学校教諭	岡田 拓也（平成24,25年度）
県立一宮東養護学校教諭	植木 佳江（平成24,25年度）
県立半田養護学校教諭	後藤 美樹（平成24,25年度）
県立春日台養護学校教諭	佐藤 一雄（平成24,25年度）
県立豊川養護学校教諭	篠原 大一（平成24,25年度）
県立安城養護学校教諭	石川まゆ美（平成24,25年度）
県立佐織養護学校教諭	野村 正（平成24,25年度）
県立三好養護学校教諭	田中 美幸（平成24,25年度）
総合教育センター研究指導主事（現県教委特別支援教育課指導主事）	内藤 進（平成24,25年度）
総合教育センター研究指導主事（現県立豊橋養護学校教頭）	木村 豊（平成24年度）
総合教育センター特別支援教育相談研究室長	溝口 克治（平成24,25年度）
総合教育センター主任主査	前田 政治（平成25年度）
総合教育センター研究指導主事	大西 淳子（平成24,25年度）
総合教育センター研究指導主事	矢野 正明（平成24,25年度）
総合教育センター研究指導主事	奥村 優（平成25年度）
総合教育センター研究指導主事	犬飼 保夫（平成24,25年度主務者）

1 はじめに

平成21年3月に学習指導要領が改訂・告示され、同年6月に発行された特別支援学校学習指導要領の解説には、「自立活動の指導は、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとする取組を促す教育活動であり、個々の幼児児童生徒の障害の状態や発達の段階等に即して指導を行うことが基本である。」と示されている。したがって、自立活動

の指導に当たっては、自立活動を時間における指導として行う場合はもとより、学校教育全体の中で指導する場合においても、幼児児童生徒一人一人の実態を的確に把握し、個別に指導の目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画を作成し、それに基づいて指導する必要がある。また、平成 13 年 5 月に世界保健機関（WHO）において採択された「国際生活機能分類」（ICF：International Classification of Functioning, Disability and Health）の理念を踏まえた障害の捉え方の変化に伴い、自立活動においても、「生活機能」や「環境因子」等をよりの確に把握し、それらの相互作用を考慮しながら幼児児童生徒の実態を総合的に把握し、その上で指導を進めていくことが求められている。

愛知県下の特別支援学校（知的障害）では、重複障害学級に在籍していない児童生徒に対しては、自立活動の指導を時間における指導ではなく、各教科等の教育活動全体を通して指導をしていることが多い。したがって、各教科等における自立活動の指導に当たっては、各教科等の目標の達成を損なったり、目標から逸脱したりすることがないように留意しながら、自立活動の具体的な指導内容との関連を図るように指導している。しかし、適切な実態把握の方法や実態把握に基づく目標や指導内容の妥当性等の課題を抱え、個別の指導計画に基づく指導が十分になされていない現状がある。また、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の専門研究（平成 21 年度）「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究」において、自閉症あるいはその疑いがある幼児児童生徒（以下、自閉症児と表記する）が年々増加する傾向にあり、小学部では在籍する児童全体の 47.4%を占めていると指摘している。そのため、自閉症児の障害特性を踏まえたアセスメントが必要であり、その上で個々のニーズに応じた指導内容、指導方法の設定が重要であると考えられる。

自閉症児に対する指導内容、指導方法に関して、同研究所は、「自閉症と知的障害は全く異なる障害である」とし「自閉症であることを軸に知的障害の程度に応じることが重要」とも述べている。そこで、本研究を始めるに際しては、同研究所のプロジェクト研究（平成 18 年度～19 年度）「特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究－総合的アセスメント方法及びキーポイントとなる指導内容の特定を中心に－」の成果に注目した。そして、その中で提案された「自閉症教育の 7 つのキーポイント」を活用した具体的な指導の手順を検討し、授業実践の取組を通して、自立活動の効果的な指導の在り方について研究を進めることにした。

2 研究の目的

本研究では、特別支援学校（知的障害）における自立活動の指導を充実させるために、自閉症児を対象として実態把握からその障害特性に対する指導内容、指導方法、評価について、計画（Plan）－実践（Do）－評価（Check）－改善（Action）の過程での手順を明確にする。そして、各特別支援学校（知的障害）における実践を通して、その有効性について検討することを目的とする。

3 研究の方法

研究協力校（高等養護学校及び校舎を除く 8 校の県立特別支援学校（知的障害））と所員による共同研究で行う。

（1）1 年次（平成 24 年度）

現状と課題を整理し、特別支援学校（知的障害）における自閉症児の自立活動の効果的な指導に向

けた計画 (Plan)－実践 (Do)－評価 (Check)－改善 (Action) の過程での授業改善の在り方を検討する。

授業改善のための具体的な手だてとして、「ICF整理シート」「7つのキーポイントアセスメントシート」「授業計画シート」「授業改善シート」で構成する「指導計画ファイル」を作成する。

(2) 2年次（平成25年度）

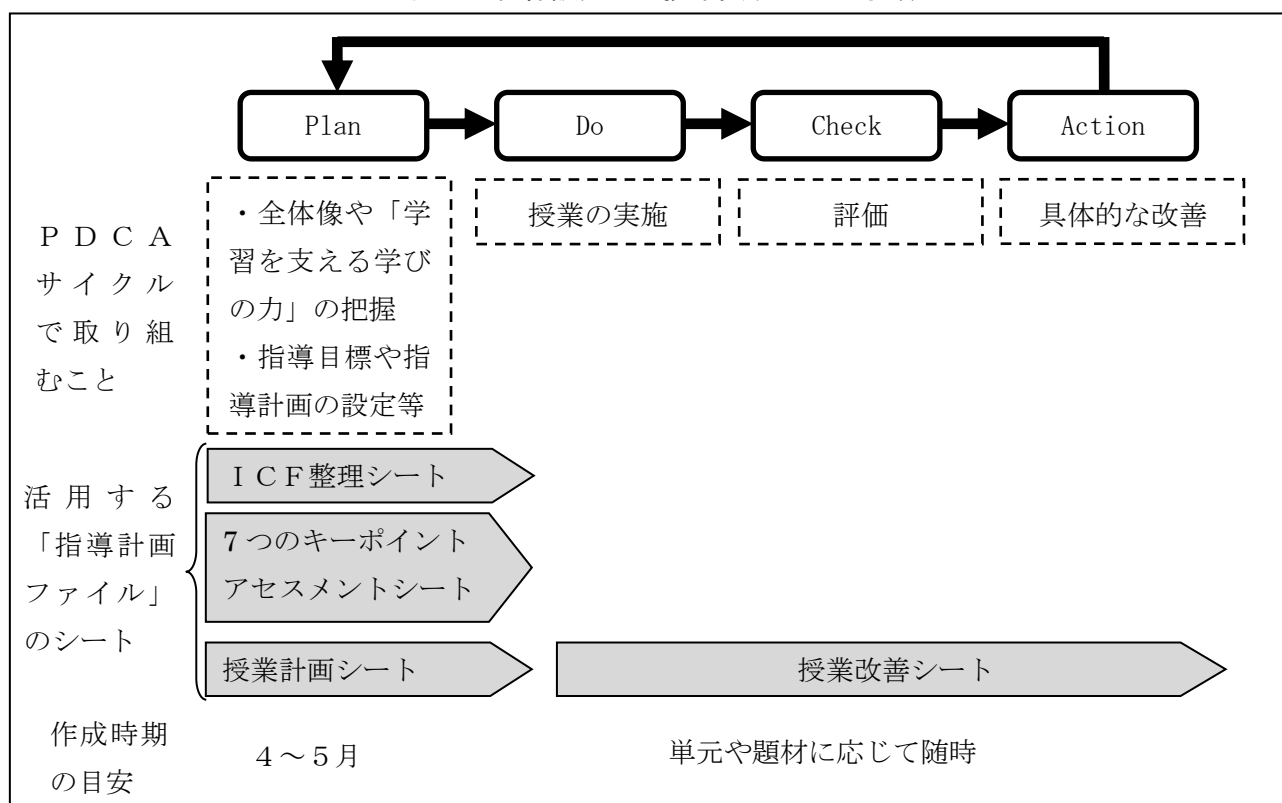
「指導計画ファイル」を作成・活用し、各特別支援学校（知的障害）において自立活動の授業実践を行う。そして、自閉症児の自立活動の指導の効果的な指導の進め方や課題を明確にする。

4 研究の内容

(1) 実態把握から授業改善まで

P D C A サイクルによる自立活動の授業実践をするために、図1の手順で授業実践を行った。

図1 目標設定から授業実践までの手順



(2) 自閉症教育の7つのキーポイントについて

本研究においては、「自閉症教育の7つのキーポイント」を目標設定や授業改善の視点として用いた。「自閉症教育の7つのキーポイント」とは、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のプロジェクト研究の成果である。先進的な取組（国立久里浜特別支援学校の実践、トモニ療育センターの実践等）の分析から、自閉症の中核となる教育内容「学習を支える学びの力」を明らかにした。そのキーポイントを表1に示す。

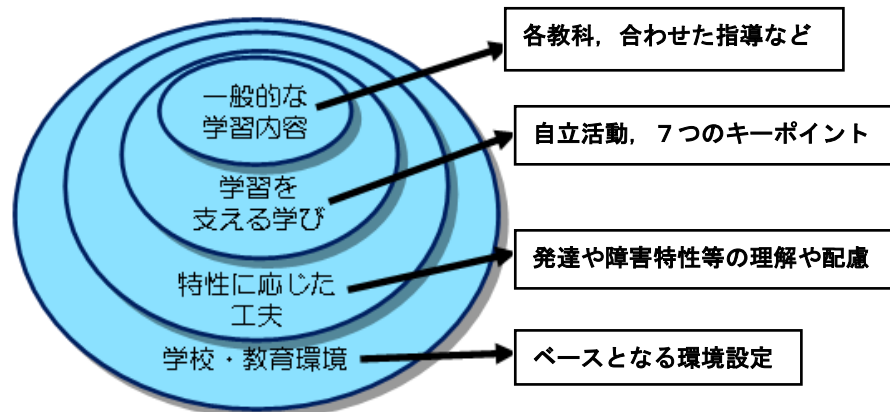
7つのキーポイントに挙げられる諸行動は、通常であればさまざまな生活経験をする中で周りの人から自然と学び、身に付けることができる。しかし、自閉症児にとっては、障害特性（三つ組の特性、感覚の特性、認知の特性等）により、人から自然と学び経験を積み重ねていくことが難しい。したがって、教師が適切な指導・支援をすることによって経験を積み、学んでいく必要がある。

表1 自閉症教育の7つのキーポイント

- ①自ら学習する態勢になる力（学習態勢）
- ②自ら指示に応じる，指示を理解できる力（指示理解）
- ③自ら自己を管理する，調整する力（セルフマネジメント）
- ④自ら楽しいことや嬉しいことを期待して活動に向かう力（強化システムの理解）
- ⑤自ら何かを伝えようとする意欲と個に応じた形態を用いて表出する力（表出性のコミュニケーション）
- ⑥自ら模倣して，気づいたり学んだりする力（模倣）
- ⑦自ら課題解決のために注視すべき刺激に注目できる力（注視物の選択）

このキーポイントと学習の基本構造を整理すると，図2のようになる。自閉症児が，さまざまな学習内容を学ぶ際に，その「学習を支える学びの力」として位置付けられるものである。

図2 7つのキーポイントと学習の基本構造の関連



(3) 「指導計画ファイル」の構成及び作成手順

ア 「指導計画ファイル」の構成について

本研究においては，P D C Aサイクルを効果的に実践するために「指導計画ファイル」を活用した。このファイルの内容等について表2に示す。

表2 指導計画ファイルの各シート

シート		活用場面	活用から期待できること
I C F整理シート (資料1)	・対象の児童生徒の全体像を把握する。	実態把握	・指導の対象とする児童生徒の状態像（障害の状態，学校生活の様子，必要な支援等）を総合的に把握できる。
7つのキーポイントアセスメントシート (資料2)	・「学習を支える学びの力」の実態を把握する。		・学習に必要な行動のつまずきを把握できる。 ・芽生えている項目の把握から指導目標として設定できる。
授業計画シート (資料3)	・実態把握を基にして目標を設定する。 ・具体的な指導内容の指導場面や指導形態や指導場面の関連について整理する。	授業計画	・具体的な指導目標を設定できる。 ・共通の視点をもって実践できる。
授業改善シート (資料4)	・7つのキーポイントを基に目標や手だてを設定して実践する。 ・目標や手だてと照らし合わせて評価したり，具体的な改善点を検討したりする。	授業実践	・具体的な授業改善ができる。

イ 各シートの作成手順について

PDC Aサイクルの手順で自立活動の指導を行うために、「指導計画ファイル」にある各シートを活用して、次頁の図3－1から図3－4までの手順で実践をした。アセスメントの結果から具体的な目標を考えることで、授業の目標や手だて、評価、改善点も具体的に考えることができる。

図 3-1 作成手順 (1)

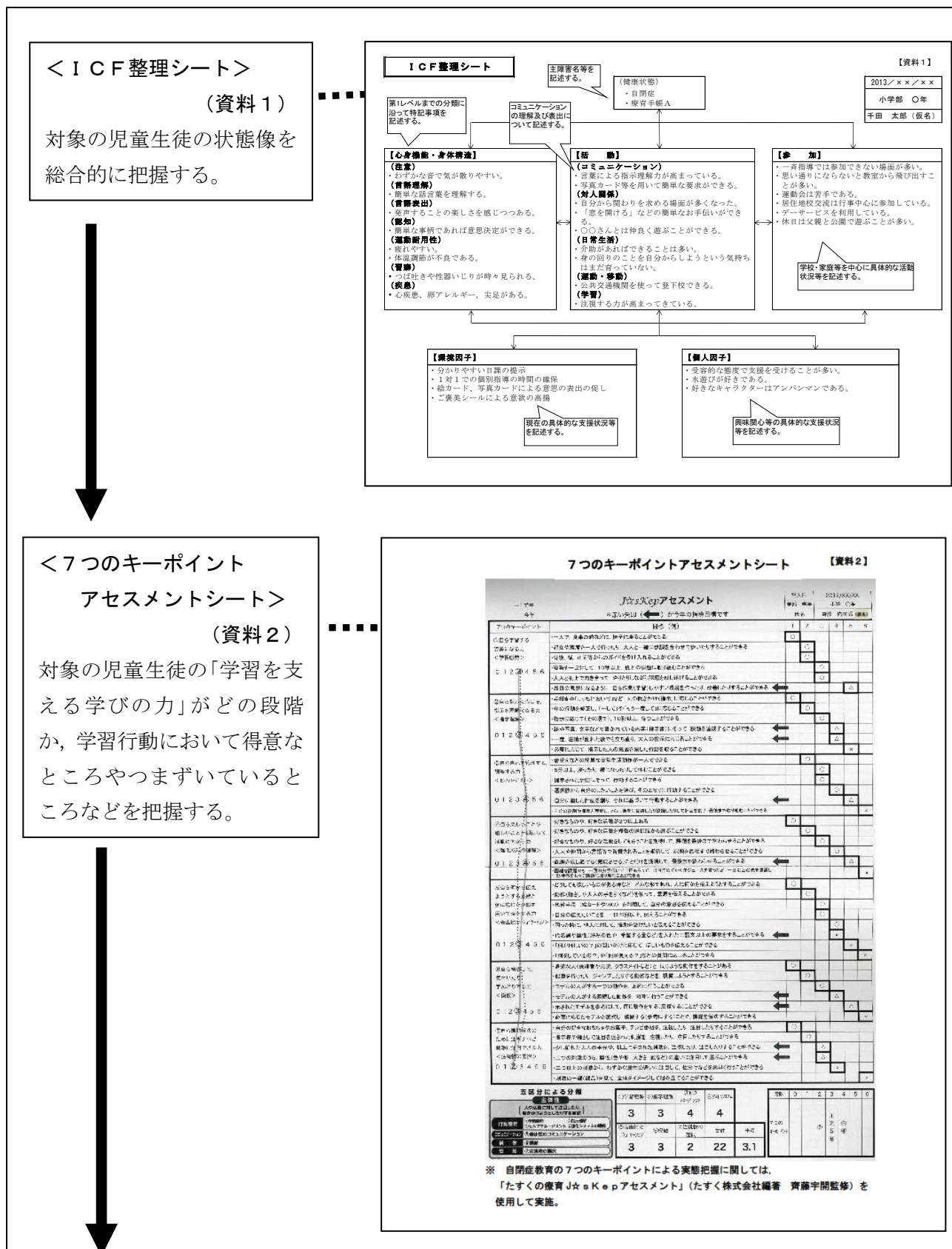


図 3-2 作成手順 (2)

＜授業計画シート＞

(資料 3)

長期目標 (3 年) と短期目標 (1 年) を設定する。

《授業計画シート》

【資料 3】

指導目標				
長期目標	はしの操作に慣れ、つかみやすいものをつかむことができる。 片仮名で名前を書くことができる。			
短期目標	練習用はしを使って物をつかむことに慣れる。 縦横の直線の線引きをできるようにする。			

2 指導項目				
キーポイント	段階	実態	目標	6区分28項目との関連
① 学習姿勢	1	・食事や学習のときに着席して取り組むことができる。 ・姿勢が崩れたときに、姿勢を直すことができるまま継続することがある。 ・人に動きを合わせること、身体ガイドを受け入れることが少しずつできるようになっている。 ・教材を操作するときに自分の手も使う。	・自分で姿勢を直すことができる。 ・さまざまな学習において、教師からの身体ガイドを受け入れられるようになる。 ・支え手を置いて、利き手で教材を操作することができる。	3 人間関係の形成(1) 5 身体の動き(1)(3)
② 指示理解	1	・簡単な指示に応じることができる。 ・指示が促すことで少しずつ修正に応じることができるようになってきている。	・マッピングなど言葉が明瞭な学習課題や、あらかじめルールが決まっている活動等で、修正が求められたときに自分から直すことができる。	3 人間関係の形成(1)
③ セルフマネージメント	2	・自分の身の回りの簡単なことに取り組むことができる。 ・バランスボールを使って体を休めることができる。 ・手帳書を使いながら活動を進めていくことは難しい。	・自由時間にバランスボールに乗って過ごすことができる。	2 心理的な安定(1)
④ 強化システムの理解	1	・好きな食べ物や飲み物、感覚過敏がある。絵本や玩具等にはあまり興味関心を示さない。特定の大人と関わることも好きである。 ・本人の目の前にある食べ物であれば、複数の選択肢から選ぶことができる。 ・実行機能の弱さがあり、楽しみなことを目標にして取り組むこと(目標をイメージすること)は難しい。	・食物(食べ物以外)での選択、写真カード(食べ物)を用いた選択ができるようになる。 ・好きな遊びを増やす。	3 人間関係の形成(1)

＜授業計画シート＞

(資料 3)

7 つのキーポイントの各項目について、実態を詳しく記述する。

《授業計画シート》

【資料 3】

2013/××/×× 小学部〇年 平田 太郎 (仮名)

指導目標				
長期目標	はしの操作に慣れ、つかみやすいものをつかむことができる。 片仮名で名前を書くことができる。			
短期目標	練習用はしを使って物をつかむことに慣れる。 縦横の直線の線引きをできるようにする。			
2 指導項目				
キーポイント	段階	実態	目標	6区分 28項目との関連
① 学習姿勢	1	・食事や学習のときに着席して取り組むことができる。 ・姿勢が崩れたときに、姿勢を直すことができずそのまま続けることがある。 ・人に動きを合わせること、身体ガイドを受け入れることが少しずつできるようになっている。 ・教材を操作するときに自分の手も使う。	自分で姿勢を直すことができる。 さまざまな学習において、教師からの身体ガイドを受け入れられるようになる。 支え手を置いて、利き手で教材を操作することができる。	3 人間関係の形成(1) 5 身体の動き(1)(2)
② 指示理解	1	・簡単な指示に応じることができる。 ・指示が促すことで少しずつ修正に応じることができるようになってきている。	マッピングなど言葉が明瞭な学習課題や、あらかじめルールが決まっている活動等で、修正が求められたときに自分から直すことができる。	3 人間関係の形成(1)
③ セルフマネージメント	2	・自分の身の回りの簡単なことに取り組むことができる。 ・バランスボールを使って体を休めることができる。 ・手帳書を使いながら活動を進めていくことは難しい。	自由時間にバランスボールに乗って過ごすことができる。	2 心理的な安定(1)
④ 強化システムの理解	1	・好きな食べ物や飲み物、感覚過敏がある。絵本や玩具等にはあまり興味関心を示さない。特定の大人と関わることも好きである。 ・本人の目の前にある食べ物であれば、複数の選択肢から選ぶことができる。 ・実行機能の弱さがあり、楽しみなことを目標にして取り組むこと(目標をイメージすること)は難しい。	食物(食べ物以外)での選択、写真カード(食べ物)を用いた選択ができるようになる。 好きな遊びを増やす。	3 人間関係の形成(1)

＜授業計画シート＞

(資料 3)

実態を基に指導目標を書き出し、自立活動の「内容」との関連を整理する。

《授業計画シート》

【資料 3】

2013/××/×× 小学部〇年 平田 太郎 (仮名)

指導目標				
長期目標	はしの操作に慣れ、つかみやすいものをつかむことができる。 片仮名で名前を書くことができる。			
短期目標	練習用はしを使って物をつかむことに慣れる。 縦横の直線の線引きをできるようにする。			
2 指導項目				
キーポイント	段階	実態	目標	8区分 28項目との関連
① 学習姿勢	1	・食事や学習のときに着席して取り組むことができる。 ・姿勢が崩れたときに、姿勢を直すことができるその反復することがある。 ・人に動きを合わせることに、身体ガイドを受け入れることが少しずつできるようになっている。 ・教材を操作するときに自分の手も使う。	・自分で姿勢を直すことができる。 ・さまざまな学習において、教師からの身体ガイドを受け入れられるようになる。 ・支え手を置いて、両手で教材を操作することができる。	3 人間関係の形成(1) 5 身体の動き(1)(2)
② 指示理解	1	・簡単な指示に応じることができる。 ・指示が促すことで少しずつ修正に応じることができるようになっている。	・マッピングなど言葉が明瞭な学習課題や、あらかじめルールが決まっている活動等で、修正が求められたときに自分から直すことができる。	3 人間関係の形成(1)
③ セルフマネージメント	2	・自分の身の回りの簡単なことに取り組むことができる。 ・バランスボールを使って体を休めることができる。 ・手帳書を使いながら活動を進めていくことは難しい。	・自由時間にバランスボールに乗って過ごすことができる。	2 心理的な安定(1)
④ 強化システムの理解	1	・好きな食べ物や飲み物、感覚過敏がある。絵本や玩具等にはあまり興味関心を示さない。特定の大人と関わることも好きである。 ・本人の目の前にある食べ物であれば、複数の選択肢から選ぶことができる。 ・実行機能の弱さがあり、楽しみなことを目標にして取り組むこと(目標をイメージすること)は難しい。	・食物(食べ物以外)での選択、写真カード(食べ物)を用いた選択ができるようになる。 ・好きな遊びを増やす。	3 人間関係の形成(1)

図 3-3 作成手順 (3)

<授業計画シート>

(資料3)

目標を達成するための具体的な指導内容を記述する。

- ・どの場面で教えるか。
- ・どの場面と関連付けて教えるか 等。

⑤ 異性のコミュニケーション	1	・食べ物など欲しいものがあるときには大人に、声や身振りなどで要求を伝えることができる。 ・伝え方が分からないときには、直接的な行動(その場所に行く等)をするともある。	・いろいろな数詞に要求を伝えることができる。	2 心理的な安定(1) 3 人間関係の形成(1) 6 コミュニケーション(1)
⑥ 模倣	2	・教師や友達の様子を見て、同じように移動ができる。 ・ジャンプする、床で色を塗るなど簡単な動きの模倣ができる。	・一つずつの動きを正確に模倣することができる。(例:ラジオ体操や鬼ごっこなどの動き)	3 人間関係の形成(1) 5 身体の動き(3)
⑦ 注視物の選択	1	・好きなもの(食べ物など)に注目することができる。 ・指示棒で示された箇所に注目することができるようにしてきた。	・指示棒や指差しで示された箇所に自分から注目できる。(例:カードを貼ったり、ブロックをはめたりすることができる。)	4 環境の把握(2)

3 具体的な指導内容	具体的な指導内容	指導形態 (教科等名)	指導場面	キーポイント
・バランスボールに座って、一定時間姿勢を保持する。(教師や友達の動きを写本にする)		体育、国語、算数	体育の「バランスボール運動」 国語、算数の「数の準備運動」	①学習姿勢 ②模倣
・教師の持つ棒の位置に合わせて、キューブを並べる。教師の持つキューブの位置に合わせて、棒を並べる(片手を机の上に置き、もう片手で棒やキューブを持つ)。		算数	個別の算数学習	①学習姿勢 ②指示理解
・指示棒や指差しで示された絵と同じ絵を選んで貼る。		算数	個別の算数学習	①注視物の選択
・指示棒や指差しで示された箇所にシールや紙を貼ったり、色を塗ったりする。		生活単元学習	活動	①注視物の選択
・給食で食べたい物を数詞に伝えることができる。		日常生活の指導	給食	①強化システムの理解 ②異性とのコミュニケーション

<授業改善シート>

(資料4)

授業について整理する。
実態(7つのキーポイントアセスメントシートより転記)、対象の児童生徒の単元全体や本時の目標を記述する。

【授業改善シート】

【資料4】

7つのキーポイント				教科	算数	算数	算数	算数
1 学習意欲	1	5 異性のコミュニケーション	1	算数の目標	算数の目標	算数の目標	算数の目標	算数の目標
2 指示理解	1	6 模倣	2	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
3 セルフマネジメント	2	7 注視物の選択	1	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
4 強化システムの理解	1	平均	1.2	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
授業の内容	全体への手だて	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
「あたまのじゅんぱんどう」	・手本を見せる。 ・必要に応じて体を支えるなどの補助をする。	・教師と同じ姿勢をとる。 ・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。
「すうじのうた」	・模倣を指導できるように模倣のカードを貼る。 ・カードを貼る場所を指差しする。 ・「べんきょう」	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。

○：目標達成 ▲：目標未達成

<授業改善シート>

(資料4)

授業について整理する。
授業全体の展開や手だて、対象の児童生徒に対する目標や手だてを具体的に記述する。

【授業改善シート】

【資料4】

7つのキーポイント				教科	算数	算数	算数	算数
1 学習意欲	1	5 異性のコミュニケーション	1	算数の目標	算数の目標	算数の目標	算数の目標	算数の目標
2 指示理解	1	6 模倣	2	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
3 セルフマネジメント	2	7 注視物の選択	1	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
授業の内容	全体への手だて	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標	本時の目標
「あたまのじゅんぱんどう」	・手本を見せる。 ・必要に応じて体を支えるなどの補助をする。	・教師と同じ姿勢をとる。 ・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。	・前で手本を見せる。動きのポイントとなる部分を意識させる。 ・姿勢が崩れそうになったときに自分から戻す。
「すうじのうた」	・模倣を指導できるように模倣のカードを貼る。 ・カードを貼る場所を指差しする。 ・「べんきょう」	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。	・左から順に貼カードをマッピングする。 ・右から順に貼カードをマッピングする。 ・教師の持つ棒(キューブ)の位置に合わせて、キューブ(棒)を並べる。 ・片手で棒やキューブを操作する(もう一方の手は机の上に置く)。 ・はめるブロックを間違えたときに直す。 ・間違えられた場所のブロックをはめる。

○：目標達成 ▲：目標未達成

図3-4 作成手順(4)

＜授業改善シート＞

(資料 4)

授業実践する。

授業後に、目標を振り返りながら、具体的に評価を記述するとともに、記号を加えて分かりやすくする。

【授業改善シート】

【資料4】

[illegible]

○：目標達成 ▲：目標未達成

＜改善例＞

○の項目：指導を継続して定着を図る。次の目標へステップアップする。

▲の項目：支援の手だてや教材を変更する。同じ目標、手だてで再試行する。目標を見直す。



＜授業改善シート＞

(資料 4)

評価を基に、支援の手
だてや教材等の改善点
や、次の目標を具体的
に設定する。

【授業改善シート】

【資料4】

[illegible]

○：目標達成 ▲：目標未達成

(4) 各特別支援学校（知的障害）における自立活動の指導の実践事例

ア 愛知県立一宮東養護学校（小学部）

小学部2年生の自閉症の児童を対象に、各教科等を合わせた指導である日常生活の指導、生活単元学習、遊びの指導において自立活動の指導を実践した。そして、これらの複数の授業場面で一貫した指導を行うことにより、効果的な指導を行うことができた。その際、「授業計画シート」及び「授業改善シート」の作成・活用は、教師間での共通理解を図る上で大いに役立てることができた。

イ 愛知県立豊川養護学校（小学部）

小学部5年生の自閉症の児童を対象に、算数科の授業において自立活動の指導を実践した。「7つのキーポイントアセスメントシート」「授業計画シート」を活用することで、学習上のつまずきを把握し重点的な目標を設定することができた。そして、「授業改善シート」を活用し授業の目標と手だてを明確にすることで授業後に具体的に評価することができ、次時に向けた改善策を検討することができた。

ウ 愛知県立安城養護学校（小学部）

小学部1年生の自閉症の児童を対象に、各教科等を合わせた指導である日常生活の指導、生活単元学習、遊びの指導において自立活動の指導を実践した。指導に対する評価に関して「授業改善シート」において○や▲などと明確にシート内に示すことで、つまづいている点が明確になり次時の指導を考える際に参考になり、PDCAサイクルでの授業改善に役立てることができた。

エ 愛知県立半田養護学校（中学部）

中学部3年生の自閉症の生徒を対象に、国語科の授業において自立活動の指導を実践した。「授業計画シート」及び「授業改善シート」の作成・活用により、教科における指導の目標と自立活動の指導の目標との違いを明確にして指導を行うことができた。

オ 愛知県立三好養護学校（中学部）

重複障害学級に在籍する中学部3年生の自閉症の生徒を対象に、保健体育科の授業において自立活動の指導を実践した。「指導計画ファイル」は、実態把握から評価まで担任教師や授業担当教師等の話し合う際の共通のツールとして有効に活用することができ、自立活動の指導目標の達成に向け役立てることができた。

カ 愛知県立春日台養護学校（高等部）

高等部1年生の自閉症の生徒を対象に、数学科の授業において自立活動の指導を実践した。「授業計画シート」及び「授業改善シート」の作成・活用に関しては、特に、「授業改善シート」の作成によって、指導の手だてを具体的に改善することができ、より効果的な指導へとつなげられた。

キ 愛知県立佐織養護学校（高等部）

高等部2年生の自閉症の生徒を対象に、国語科の授業において自立活動の指導を実践した。「授業計画シート」を作成する中で、7つのキーポイントと自立活動の内容である6区分26項目とを関連付けながら指導項目を選定することで、教科指導を含めた教育活動全体を通じた自立活動の指導における具体的な指導内容を明らかにしていくことができた。

ク 愛知県立みあい養護学校（小学部）

小学部では時間における自立活動の指導を行っている。小学部5年生の自閉症の児童を対象に、時間における指導での「個別の課題学習」に関して、「授業計画シート」及び「授業改善シート」を作成・活用し授業実践を行った。その結果、教材教具の工夫の必要性が明らかになるなど、授業改善に向けて具体的な指導の手だてを明確にすることができた。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

本研究では、まず自閉症児一人一人の「障害による学習上または生活上の困難」をより総合的に把握できるように、ICFとの関連でとらえた「ICF整理シート」で実態を整理することとした。この過程を経ることにより、「活動」や「参加」における実行状況や能力だけでなく、意欲等の「個人因子」や視覚的教材の活用等の「環境因子」との関連における実態把握を行うことができた。

また、「7つのキーポイントアセスメントシート」を活用しチェックすることにより、数値化して実態把握をすることができ、教師同士が意見交換することで、自閉症の障害特性を踏まえた総合的・客観的な実態把握に基づいた指導目標の設定に役立てることができた。

そして、「授業計画シート」での指導目標の達成に向けた指導内容の設定において、7つのキーポイントごとに自立活動の「内容」である6区分26項目の中から該当する項目を選定することで、指導内容の明確化をより図ることができた。また、これまで指導内容の設定に当たっては、発達の遅れている側面や改善の必要な状態に着目しがちであったが、7つのキーポイント全てにおいて指導項目を選定することにより、発達の進んでいる側面についても着目し、自信を深め意欲を喚起し遅れている面の伸長や改善に有効に作用させることができた。

自立活動の指導が一人一人にとって適切に行われたか否かは、実際の指導を通して見られる児童生徒の学習状況や習得度等によって明らかになる。「授業改善シート」は授業改善を行うためのツールであり、7つのキーポイントを踏まえた具体的な指導の手だてを計画し実施することで具体的に評価することができた。このように、評価結果を教師間で協議することで、より客観的な評価につなげることができた。

そして、各特別支援学校（知的障害）において、この4種類のシートで構成する「指導計画ファイル」を活用した授業を実施し、PDCAサイクルによる授業改善を図ることができたことは大きな成果であり、自閉症児に対する自立活動の指導の充実に向けた提案ができたと考える。

(2) 今後の課題

自閉症児の自立活動の指導について、特別支援学校（知的障害）では、各教科等の教育活動全体を通して指導していることが多いため、本研究では時間における指導の在り方については十分に研究を深めることができなかった。しかし、他の障害種の特別支援学校においては、時間における指導として取り組まれていることを踏まえると、特別支援学校（知的障害）に在籍する自閉症児に対して、その障害特性に応じた自立活動を時間における指導として実施することは、十分にその効果が期待できると思われる。

また、知的発達に遅れがある自閉症児は、特別支援学校（知的障害）のみに在籍しているのではなく、他の障害種の特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級、通常の学級においても在籍している。このような自閉症を合併している重複障害児に対しての自立活動の指導の在り方、小・中学校の特別支援学級や通級による指導における自立活動を取り入れた教育課程の編成及び指導内容や指導方法、さらには通常の学級に在籍し、自立活動の指導が必要な児童生徒も存在すると思われることから、それらの児童生徒に対する具体的な指導の在り方についても研究を進める必要があると考える。

6 おわりに

本研究は、県下の特別支援学校（知的障害）から研究協力委員として参加していただき、総合教育センターとの共同研究として取り組んできた。したがって、自立活動の指導の充実にあたり、学校の特色に応じて様々な視点で検討を進めることができ、実践事例も含めて具体的な提案ができたと考える。今回作成した「指導計画ファイル」を参考に、自閉症あるいはその疑いがある幼児児童生徒の自立活動の指導を担当する先生方の指導に役立てていただけたら幸いである。そして、自閉症の特性に応じたよりよい指導が実施され、子どもたちが「生きる力」を獲得し自立した社会生活を送ることにつながることを願う。

【参考・引用文献】

- ・新井英靖他（2011 年）「自閉症児のコミュニケーション形成と授業作り・学級作り」黎明書房
- ・茨城大学教育学部附属特別支援学校（2009 年）「障害特性に応じた指導と自立活動」黎明書房
- ・河島淳子，高橋知恵子（2009 年）「自閉症スペクトラム児のための育児と教育」トモニ療育センター
- ・国立特別支援教育総合研究所（2004 年）「自閉症教育実践ガイドブッカー今日の充実と明日への展望」ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所（2005 年）「自閉症教育実践ケースブッカーより確かな指導の追究」ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所（2005 年）「I C F（国際生活機能分類）活用の試み 障害のある子どもの支援を中心に」ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所（2007 年）「I C F 及び I C F－C Y の活用 試みから実践へ ー特別支援教育を中心にー」ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所（2008 年）「自閉症教育実践マスターブッカーキーポイントが未来をひらく」ジアース教育新社
- ・国立特別支援教育総合研究所（2010 年）研究成果報告書「知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校に在籍する児童生徒の増加の実態と教育的対応に関する研究」
- ・国立特別支援教育総合研究所（2013 年）「特別支援教育における I C F の活用 Part 3 学びのニーズに応える確かな実践のために」ジアース教育新社
- ・文部科学省（2003 年）「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」
- ・文部科学省（2009 年）「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」
- ・中尾繁樹（2009 年）「みんなの『自立活動』 特別支援学校編」明治図書
- ・西村修一（2009 年）「子どもの見方がかわる I C F 特別支援教育への活用」かもがわ出版
- ・笹森洋樹，廣瀬由美子，三苫由紀雄（2009 年）「新教育課程における発達障害のある子どもの自立活動の指導」明治図書
- ・齊藤宇開（2013 年）「たすくの療育 J ☆sKep アプローチ メソッド5」たすく株式会社
- ・障害者福祉研究会（2002 年）「I C F 国際生活機能分類 国際障害分類改訂版」中央法規
- ・東京 I E P 研究会（2009 年）「自閉症課題百選」明治安田こころの健康財団
- ・横山孝子（2011 年）「よさを伸ばし，豊かな生活をつくる自立活動」明治図書
- ・全国心身障害児福祉財団（2011 年）「新しい自立活動の実践ハンドブック」
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会（2011 年）「知的障害教育における学習評価の方法と実際ー子どもの確かな成長を目指してー」ジアース教育新社
- ・全国特別支援学校知的障害教育校長会（2012 年）「知的障害教育における専門性の向上と実際ー知的障害教育指導の充実と人材育成を目指して」ジアース教育新社